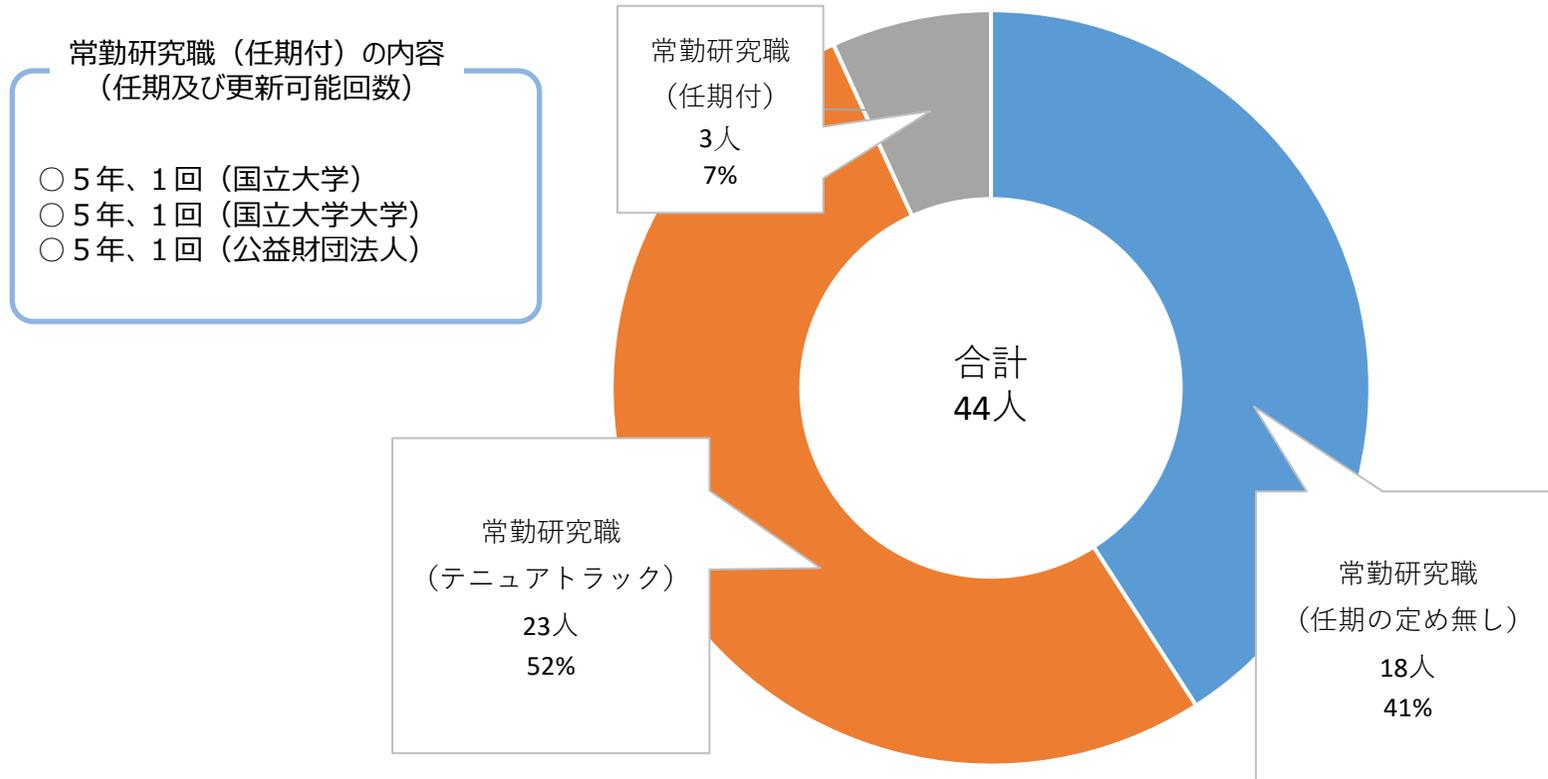


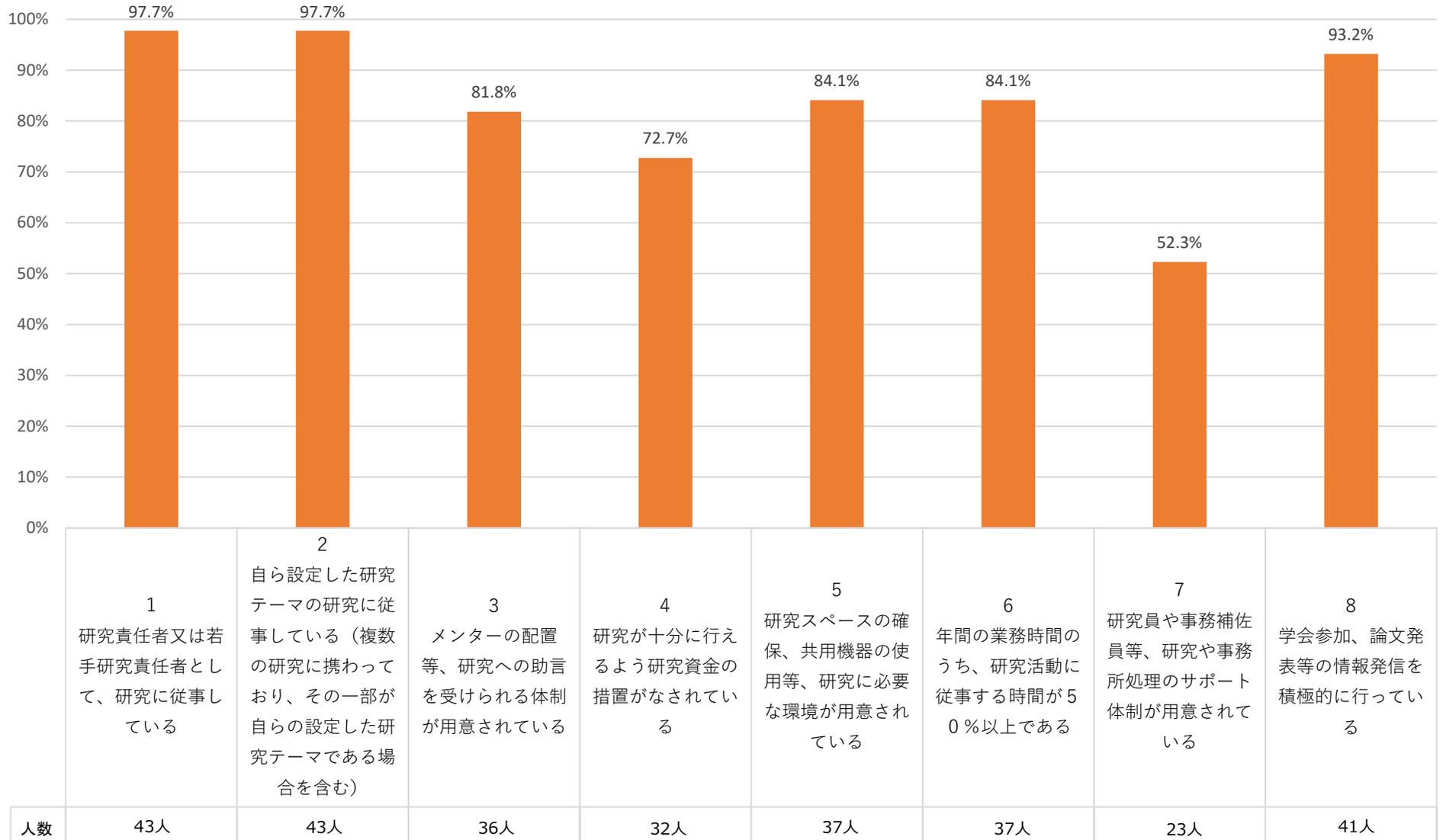
平成31年度卓越研究員事業に申請し、卓越研究員となった者に対して、研究活動状況等について追跡調査を実施

- ・調査実施時期：R4.10月
- ・調査対象期間：H31～R3年度の3年間
- ・調査対象者数：48名、回答者数：44名（回答率 91.7%）

## ○雇用形態について

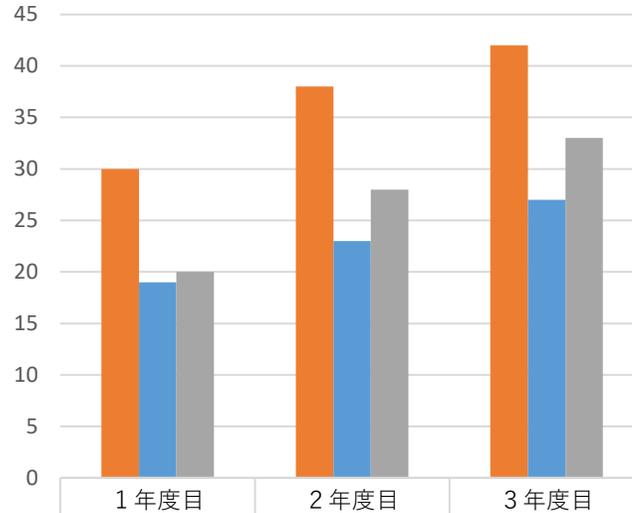


## ○研究活動状況について



## ○研究活動実績について（論文発表）

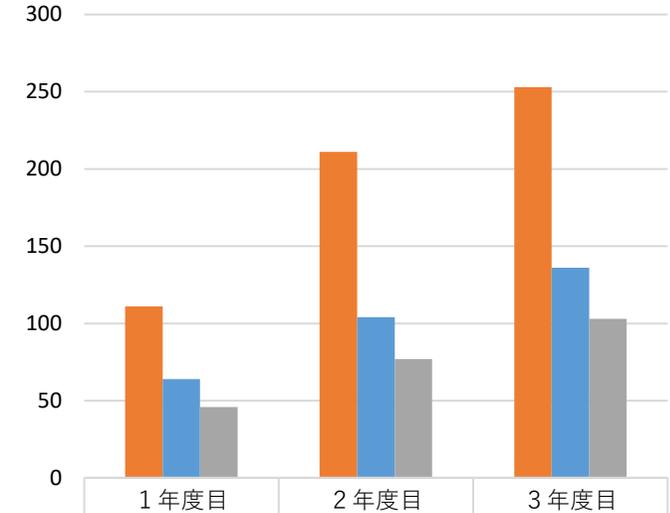
### <論文発表人数>



	1年度目	2年度目	3年度目
■ 論文発表人数 (人)	30 (68.2%)	38 (86.4%)	42 (95.5%)
■ うち、国際共著論文	19	23	27
■ うち、第一著者・責任著者	20	28	33

※括弧内は回答者数に対する論文発表人数の割合

### <論文数>



	1年度目	2年度目	3年度目
■ 論文数 (件)	111	211	253
■ うち、国際共著論文	64	104	136
■ うち、第一著者・責任著者	46	77	103

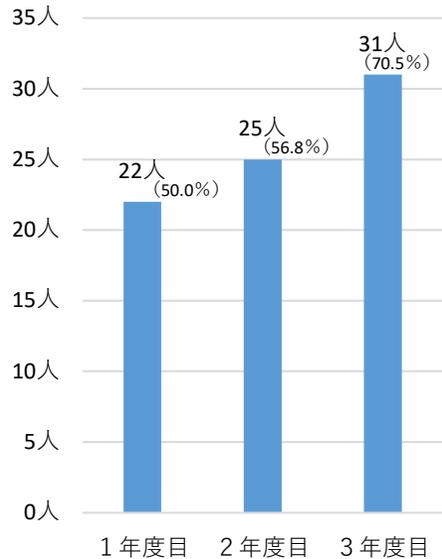
### 最も学術的価値の高い論文が掲載されたジャーナル名（第一著者・責任著者のみ・3年度目）

○ACS Applied Materials & Interfaces ○ACS Catalysis ○Advances in Mathematics ○Analyst ○Applied Physics Express ○Biophysical Journal ○ Bulletin of the Chemical Society of Japan ○Cell Reports ○Communication in Analysis and Geometry ○Designs, Codes and Cryptography ○ Energy ○Experimental Eye Research ○Geophysical Research Letters ○IEEE Transactions on Network Science and Engineering ○iScience ○ Journal of Algebra ○Journal of Statistical Planning and Inference ○Journal of Virology ○Nanoscale ○Nature ○Nature Communications ○ Nature Materials ○Physical Review B ○Physical Review Letters ○Science Advances ○Science and Technology of Advanced Materials: Methods ○The Astrophysical Journal など (アルファベット順)

# 令和4年度卓越研究員事業の追跡調査結果（平成31年度卓越研究員の研究活動状況④）

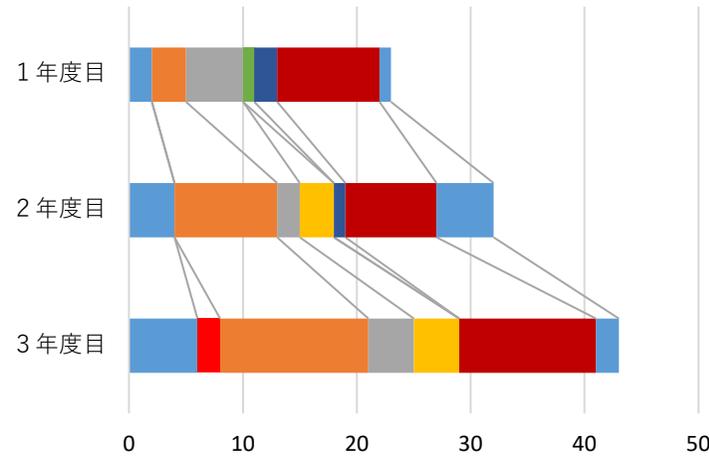
## ○研究活動実績について（科研費） ※各年度2件まで回答

＜獲得人数＞



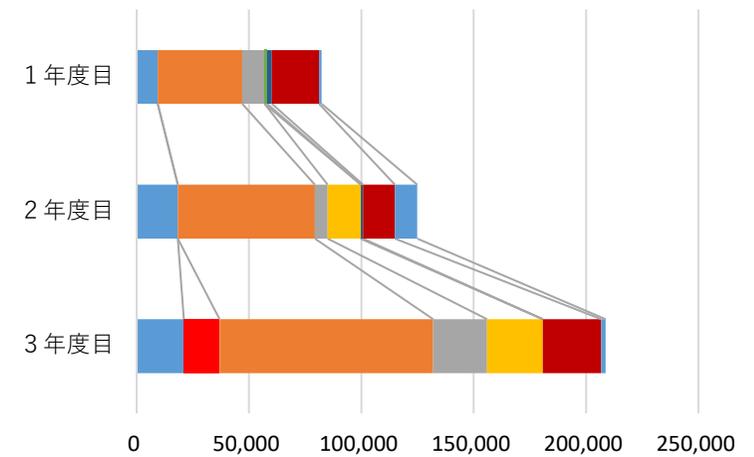
※括弧内は回答数者に対する科研費獲得人数の割合

＜種目別獲得件数（件）＞



	1年度目	2年度目	3年度目
■新学術領域研究	2	4	6
■学術変革領域研究A	0	0	2
■基盤研究(B)	3	9	13
■基盤研究(C)	5	2	4
■挑戦的研究(萌芽)	0	3	4
■若手研究(A)	1	0	0
■若手研究(B)	2	1	0
■若手研究	9	8	12
■研究活動スタート支援	1	5	2

＜種目別獲得金額（千円）＞



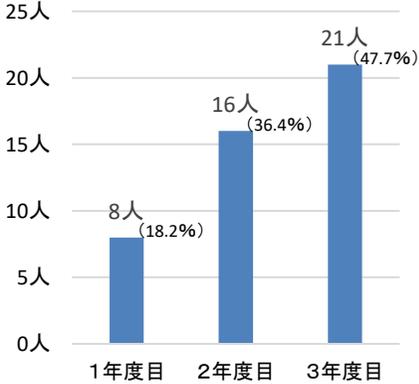
	1年度目	2年度目	3年度目
■新学術領域研究	9,360	18,330	20,970
■学術変革領域研究A	0	0	16,000
■基盤研究(B)	37,620	61,070	94,960
■基盤研究(C)	9,950	5,560	24,070
■挑戦的研究(萌芽)	0	14,800	24,800
■若手研究(A)	1,100	0	0
■若手研究(B)	2,080	1,040	0
■若手研究	21,105	14,080	25,870
■研究活動スタート支援	1,100	10,020	2,100

# 令和4年度卓越研究員事業の追跡調査結果（平成31年度卓越研究員の研究活動状況⑤）

## ○研究活動実績について（その他外部資金）

※各年度4件まで回答

### <獲得人数>

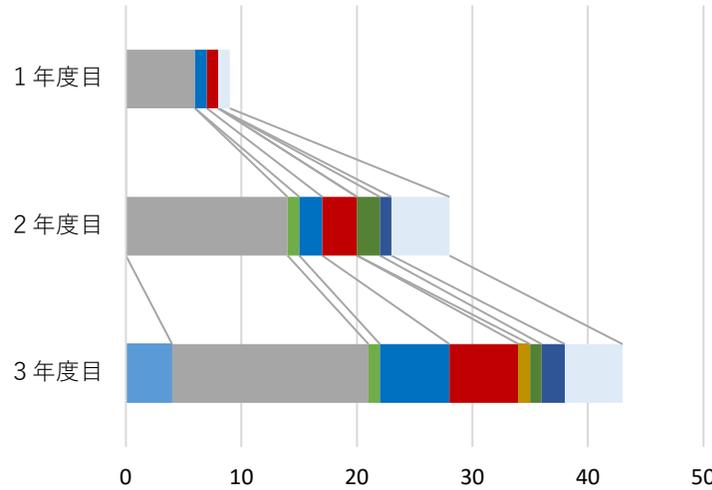


※括弧内は回答者数に対する外部資金獲得人数の割合

### 助成団体(3年度目)

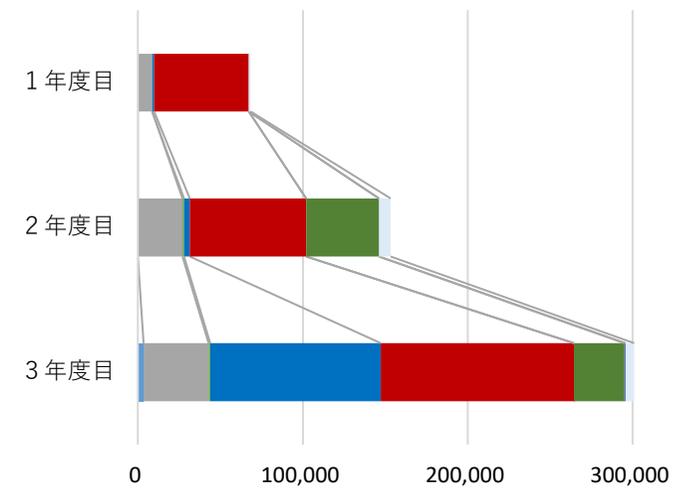
○JST A-STEP ○JST さきがけ ○AMED 新興・再興感染症研究基盤創生事業 ○AMED難治性疾患実用化研究 ○JKA補助事業 研究補助 ○二国間交流事業（インドDST） ○国立遺伝学研究所 共同研究A ○北陸銀行若手研究者助成 ○エイムオー・ジャパン株式会社 ○カシオ科学振興財団 ○コニカミルタ科学技術振興財団 ○稲盛財団 ○関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団 ○高橋産業経済研究財団 ○小笠原科学技術振興財団 ○上原記念生命科学財団 ○池谷科学技術振興財団 ○中谷医工計測技術振興財団 ○中富健康科学振興財団研究助成 ○電気通信普及財団 ○内藤記念科学振興財団・研究助成 ○武田科学振興財団 ○公益財団法人加藤記念バイオサイエンス研究助成 ○大阪大学IB Grant など

### <助成団体別獲得件数（件）>



	1年度目	2年度目	3年度目
■株式会社	0	0	4
■公益財団法人	6	14	17
■独立行政法人（JSPS）	0	1	1
■国立研究開発法人（JST）	1	2	6
■国立研究開発法人（AMED）	1	3	6
■大学共同利用機関法人（NIG）	0	0	1
■大学等（所属大学）	0	2	1
■大学等（所属外）	0	1	2
■その他・不明	1	5	5

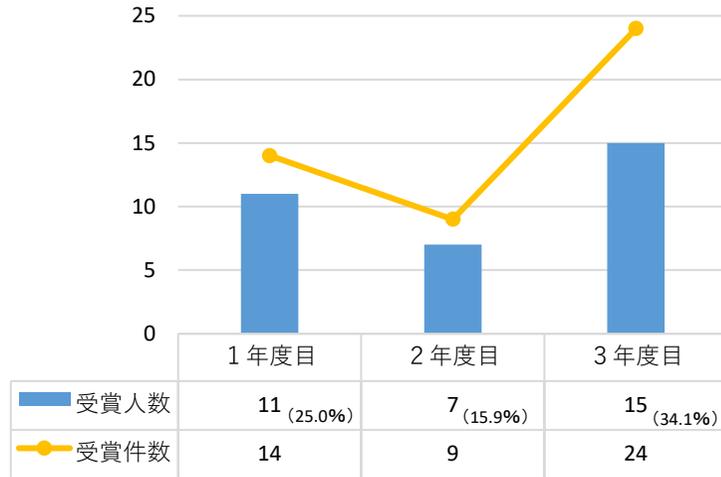
### <助成団体別獲得件数（千円）>



	1年度目	2年度目	3年度目
■株式会社	0	0	3,350
■公益財団法人	8,700	26,950	39,475
■独立行政法人（JSPS）	0	1,000	1,000
■国立研究開発法人（JST）	1,000	3,410	103,447
■国立研究開発法人（AMED）	57,590	70,600	117,095
■大学共同利用機関法人（NIG）	0	0	150
■大学等（所属大学）	0	44,100	30,500
■大学等（所属外）	0	150	740
■その他・不明	1,000	6,995	5,160

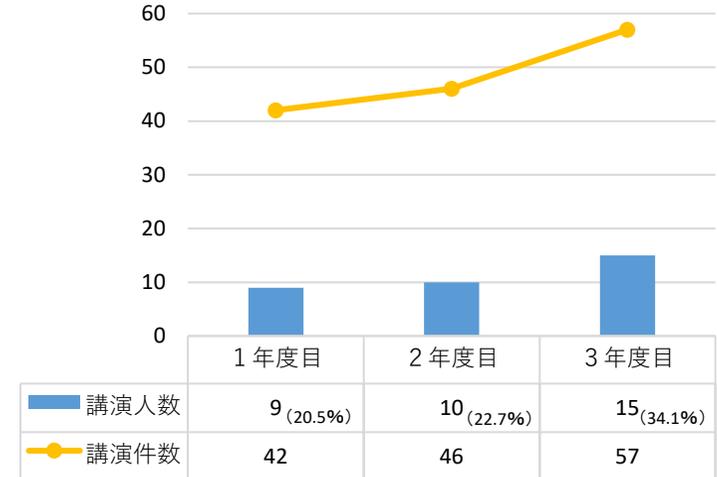
## ○研究活動実績について（その他）

＜受賞歴＞ ※各年度3件まで回答



※括弧内は回答者数に対する受賞人数の割合

＜国際会議招待講演＞



※括弧内は回答者数に対する講演人数の割合

### 賞の名称(3年度目)

○文部科学大臣表彰 若手科学者賞 ○IEEE Sapporo Young Professionals Best Researcher Award 2021 ○第8回 Biophysics and Physicobiology Editors' Choice Award ○MITテクノロジーレビュー [日本版] Innovators Under 35 Japan 2021 ○フランス科学アカデミー Les grandes avancees francaises en Biologie ○日本天文学会 欧文報告論文賞 ○高分子研究奨励賞 (高分子学会) ○第34回秋季シンポジウム 優秀講演賞, 日本セラミックス協会 ○奨励賞 (日本液晶学会) ○日本生化学会奨励賞 ○南部陽一郎記念若手奨励賞 ○KDDI Foundation奨励賞2020 ○船井情報科学振興財団 船井学術賞 ○第72回コロナおよび界面化学討論会 若手口頭講演賞 日本化学会 コロナおよび界面化学部会 ○分子ロボティクス年次大会 若手賞 ○Optics Photo Contest Prize ○コニカミルタ画像科学奨励賞 ○2020年度 広島大学工学部教育顕彰 ○新潟大学優秀論文表彰 ○筑波大学若手教員 特別奨励賞 ○神戸大学学長表彰 など

### その他実績

- 特許出願 (3名)
- 書籍出版 (9名)
- 共同研究 (3名)
- 記事掲載 (商業誌等) (2名)
- シンポジウムのセッションオーガナイザー など

## ○主な意見（改善希望事項等）

	意見分類	主な内容
A	制度改善全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機関によって事業趣旨の認識が異なるように感じられる</li> <li>○卓越研究員制度の狙いと大学の実情に乖離がある</li> </ul>
B	ポスト・当事者間交渉・採用後の処遇等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受入先機関が事業趣旨を理解していないように思う</li> <li>○テニユア審査の基準（時期、条件等）を明確化し、時間的余裕をもって実施してもらえよう、機関側に働きかけてほしい</li> <li>○教員数が少ない大学の場合、講義準備等により、まとまった研究の時間が取りにくい</li> </ul>
C	経費に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○着任初年度の予算について、着任時期によっては短期間で使用しなければならず非効率（3件）</li> <li>○年度を超えての繰り越しを認めてほしい（2件）</li> <li>○研究費の支援期間を長くしてほしい</li> <li>○経費の用途を拡大してほしい（3件）</li> <li>○研究費（2年）と研究環境整備費（5年）の支援期間が逆でもよいと感じた</li> </ul>